



千代田区の子育て事情

児童・家庭支援センター所長 新井 玉江様

卓話者紹介

高山 肇 会員

ロータリーの友 9 月号では「子ども食堂」が特集でしたし、「子ども食堂」という言葉はここ数年メディアにたくさん出ています。他自治体では、貧困とセットで福祉部所管ですが、千代田区は教育委員会が所管です。本日はこれからの活動に資する話を頂けると思います。

最近の乳幼児や小学生の保護者の傾向は、人との関わりや人付き合いが苦手な方や、子育てに関する不安を口に出すことを恥と考えている方が多いです。また、クレームを言う方も大変多く、自分の不安を悟られまいと攻撃的に権利を主張しているように思えます。

ある児童館でいつもと違い元気のない母親に職員が声をかけると、「家に二人でいると煮詰まり、夜も眠れず食欲もない。子どもにいくら話し聞かせても「いやだ」と言い、怒ったりぐずったり。どうしていいかわからない。子どもの機嫌をみながら暮らすことに疲れ果てた。」と泣き出す 2 歳の男の子のママがいました。子どものイヤイヤ期にどう対応していいかわからず途方に暮れている様子。相談員に連絡しました。「周りの親は上手に子育てしているように見えた。早く相談すれば良かった。」というママの言葉が印象的でした。悩みを話すというのは今のママたちにはハードルが高いようです。

小学生になるといろいろなことが起こります。親の前では良い子、親に本音で話せない、学校や児童館で問題行動を起こす子もいます。母親は、うちの子に限ってそんなことはしないと主張します。問題を起こした時に、子供を諭すことができなかつたり、友達感覚であったり、親が子どもの拠り所になっていなくなつたりすると、親子関係も希薄になります。

小学校 5 年生の男子で母子家庭の例です。母親はまじめで、自分自身に非常に厳しく母親失格と思ひ悩むことが多い方です。母子家庭であることに後ろめたさを感じ、無理をして子どもに習い事をやらせてきましたが、小学校 3 年生ぐらいになると、友達と遊ぶことが楽しくなり、習い事や宿題などをやらなくなったため、母親は子どもを怒鳴ったり締め出したり暴力をふるうようになりました。暴力をふるった後は、自責の念に襲われ、精神的に不安定になり、再び子どもに暴力をふるうという悪循環になっていました。しかし、ショートステイや学習支援が子どもの居場所づくりと、母親の休息となり暴力はなくなりました。

ワテラスでは学生に勉強を見てもらい、その後一緒に弁当を食べたり遊んだりしています。アイワイカフェは、子育て広場あいポート麹町で学習支援と夕食の提供を実施しております。

この 2 か所が、行政が取り組んでいるものです。来年度からは、ラーメン屋「麺やのろし」の食事の提供の協力を得て、和泉小学校近くで居場所づくり事業を実施したいと考えております。

居場所事業に参加している子どもたちは、虐待を受けている子ども、ひとり親でネグレクトになりかけている子ども等が対象ですが、誰でも参加できる訳ではありません。私たちがピックアップした子どもたちで、1対1で勉強を見たり、じっくり話を聞いたりすることで安心した居場所となります。

子ども食堂の概要ですが、活動内容は運営者により様々です。月 1 回から 2 回と無理なく運営しているところが多いようです。もちろん週 5 開催というところもあります。時間帯は平日夜が多く、朝食のところもあります。場所は、公民館、児童館、小学校、社員食堂、大学の食堂、事務所、民家、医療機関、介護施設の交流スペース、お寺、トレーラーハウスなど。参加費は子どもに関してはお手伝いなどをする事などの条件付きで無料。有料の場合は、50 円から 500 円の間で設定しているところが多いです。参加者は本来、貧困家庭や孤食の子どもを対象に、食事や安心して過ごせる場所を提供する目的で始められましたが、対象を限定しない食堂が増えていきます。千代田区も地域のコミュニティの活性化を図り、誰でも参加できるという食堂が良いと思います。自分たちで調理をしたり、地域住民との交流や遊び場として機能しているところがあります。運営者は NPO 法人、民間団体、住民による有志、個人による運営が大半で、ボランティアによるものが大部分を占め、50 代から 60 代の子育てが終わった主婦、地域の大学生、中には小学校の教員や PTA であり、千代田区のように行政が直営というのは珍しいです。運営費用は、寄付や持ち出し、インターネットで活動の様子を伝え寄付を募る、オリジナルグッズを販売、公的補助や民間企業の助成金等です。

課題や問題点も多くあります。本当に食堂を必要としている子どもに、子ども食堂の情報が届いているか。貧困対策としての報道が多かったため、子ども食堂＝貧困というイメージが広がり参加を躊躇するケースも見受けられます。また、場所や衛生面などの問題もあります。

千代田区は今後共働き家庭やひとり親世帯が増えていく中で、裕福であっても一緒に食べる家族がいない孤食、いつも同じものを食べる固食などニーズは多様です。こうした「こしょく」の解決が、子どもの健康や教育環境の改善、子育て問題の解決にもつながるのではないのでしょうか。

開会点鐘

奥山 聡会長

創立/1993年10月13日(平成5年)
事務局/〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-2-2
グランドメゾン九段 906 号 <http://tokyo-orc.jp/>
Tel: 03-3288-7300 Fax: 03-3288-7400
E-mail: ocha-rc@sirius.ocn.ne.jp

例会日 毎週水曜日 12:30~13:30
例会場 ホテルグランドパレス Tel: 03-3264-1111
会長 奥山聡 幹事 山下憲男
会報委員長: 高山 副委員長: 小田
委員: 青木 岩佐 笠原 俣野 岡田 岩佐